

## クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ (APP)

### 第 4 回鉄鋼タスクフォース会合、ウーロンゴン、オーストラリア

2007 年 10 月 23-24 日

#### 議長総括

#### 1. はじめに

クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ (APP) 鉄鋼タスクフォースのたていし・じょうじ議長と、新任の共同議長のウダイ・プラタップ・シン博士が 2007 年 10 月 23-24 日、オーストラリアのニューサウスウェールズ州ウーロンゴンのノボテル・ノースビーチ・ホテルで、第 4 回会合を開催した。会合は、参加国 7 カ国のうち 6 カ国（中国を除く、カナダが新たに APP に参加）から、45 代表の総勢約 90 人が参加した。関連業界から数名のオブザーバーが出席した。

タスクフォース会合とともに、オーストラリアがホスト国として 10 月 25 日に同じ場所で第 3 回専門家ワークショップを開催した。タスクフォースのメンバーを含め、参加者は 110 人を超えた。タスクフォース会合とワークショップに続いて、10 月 26 日にブルースコープ・スティールのポート・ケンブラ製鉄所の視察が行われた。

#### 2. 議題採択

議長は参加者に対し、共同議長の交代と、カナダが APP 参加国に新たに加わったことを発表した。新共同議長とホスト国のオーストラリアからのスピーチに続いて、タスクフォース参加者の間で短い自己紹介が順次行われた。

共同議長の開会の言葉に続き、タスクフォースは、事前に配布していた今回会合の議案を原案どおり採択した。

#### 3. 現状報告

全参加国が、インドのコルカタで 3 月に開かれた前回タスクフォース会合以後のそれぞれの活動と取り組みを簡潔に報告した。カナダは APP 新参加国として、カナダ鉄鋼産業に対する理解が深まるような概要説明、現在のエネルギー事情、温室効果ガス排出の状況や行動予定を発表した。

韓国の APP エネルギー技術協力センター (ETCC) 提案について、議長は政策実施委員会 (PIC) がこの構想を支持していると強調し、参加者に対して、韓国が配布したアンケートに答え、韓国に直接返却するように要請した。

オーストラリアがタスクフォースに対し、2007 年 11 月 24 日に予定される総選挙の期間中、政府当局者が政策問題に答えるのに一定の制約があると伝えた。

タスクフォース議長国の日本は、2007 年 7 月に東京で開かれた PIC と、2007 年 10 月に

インドのニューデリーで開かれた閣僚会合の結果について、概要を報告した。

#### 4. 省エネのための鉄鋼産業関連指標の現状評価 [STF-06-02]

日本が幹事国として、これまでプロジェクト 2 について行われた調査の中間結果を初めて発表した。プロジェクト 2 のフェーズ I では、主な省エネ・環境保護技術の普及率が調査され、各技術について CO2 削減ポテンシャルが特定された。現在はプロジェクトのフェーズ II にあり、共通の境界条件が設定され、技術の有効性がプラント建設地ごとに評価されているところである。

一方、提出されたデータの欠落や、追加の検証／明確化が必要なデータなどの問題が調査過程で見つかったため、データの質とデータ収集対象を改善する手段として、日本がデータハブ (DH) と専門家グループ (EG) の設置を提案した。また、データの秘密の確保や、外部の関係者に分析結果を公表する際に必要な配慮について、議論が集中した。

上記に関する集中的な議論の結果、タスクフォースは以下の措置と予定によって、上記問題に対処することで合意した。

1. 全参加国が 2 週間以内に、タスクフォースに登録するそれぞれの EG/DH 候補を事務局に通知する。
2. EG の役割は、データの正確性と整合性を評価することである。必要に応じて、EG はその達成のため DH と協議する。EG はデータを分析し、タスクフォースに結論を示す。
3. 全参加者は、データの正確性と対象を改善する目的で、データを新たに提出するか、既存のデータを見直すように求められた。
4. EG は、DH と EG 用の守秘ガイドラインと、国レベルの削減ポテンシャルデータの公表や参加者間のデータ共有の際の方針を検討する役目も負った。

EG の最終分析が、「理論上のポテンシャル」と「実際のポテンシャル」の間で、ずれることも合意された。

一方、全参加者は、出席した 6 ヶ国が上記合意を支持したのを認め、議長に対して、合後に中国代表に連絡を取り、受け入れてもらうように要請した。カナダ代表は、専門家グループとデータハブの条件に原則同意したが、正式な決定はカナダの常任代表が選任されてから下される。

議長は、日本と韓国が合同で主導する、「削減ポテンシャルとパフォーマンス・ベンチマーキングを特定するための共通方法論の設定」という名称の新旗艦プロジェクトについて、全参加者に支持が求められていると指摘した。これには 2 つの要素、STF-06-02 と STF-06-03 が入っている。新旗艦プロジェクトは閣僚会合で承認されている。

#### 5. パフォーマンス指標の設定 [STF-06-03]

このトピックに基づき、幹事国の韓国がプロジェクトの初期調査結果を報告した。この

プロジェクトで扱われるパフォーマンス指標の算定法や目標設定が、プロジェクト 2 の活動と密接に結び付いているため、整合性を保つことに注意しつつ、参加国ごとに固有の推定削減ポテンシャルを策定しなければならないことが明らかになった。

## 6. パフォーマンス診断 [STF-06-04]

日本がこのプロジェクトの最初の活動として、診断分析を行う省エネ・環境保護技術専門家の派遣計画を立てている途中である。具体的な派遣先と大まかな予定を含む計画の概要が説明され、2007年のプログラムには中国の3カ所、インドの1カ所のプラントが含まれていた。インドが、この作業に参加する専門家の提供を他の国々にも呼び掛けた。

APP参加者は向こう3ヵ月間に、診断プログラムの場所と詳細、具体的な助言のリクエストを提出するように求められた。

議長は、オーストラリア、中国、インドが合同で主導する、「専門家診断に基づく適格技術導入メカニズムの開発」という名称の新旗艦プロジェクトについて、全参加者に支持が求められていると指摘した。これには2つの要素、STF-06-04とSTF-06-06が入っている。新旗艦プロジェクトは閣僚会合で支持されている。

## 7. 最先端クリーン技術 (SOACT) ハンドブック [STF-06-05]

米国の指導力と他の参加国の協力のおかげで、全352ページから成るSOACTハンドブックの初版が完成し、鉄鋼タスクフォースの大きな成果物の1つが形になった。

さらに、ハンドブックを継続的に更新し、より効率的な使い方ができるように、米国が以下の3つの行動を提案し、タスクフォースから概ね承認された。

1. カナダからの情報があれば、それを加えてできる限り速やかにハンドブックの内容を更新し、その後は12ヵ月から18ヵ月ごとに更新する。
2. 欧州鉄鋼連盟 (Eurofer) とのデータ/情報の交換を検討する。
3. 2008年の都合の良い時期に、中国で「技術ショーケース」を企画し、技術サプライヤの参加を募る。

また、現在はタスクフォース参加者がインターネット経由で共有しているSOACTハンドブックの初版を、内容更新の完了から2週間以内に一般入手できるようにすることが合意された。

## 8. 技術普及 [STF-06-06]

オーストラリアがこのプロジェクトの幹事国として、パフォーマンス診断に続くプロジェクト開始の方法を含め、個別プロジェクトを実施するための概念的な方法論を提案した。共同議長が既存のインドのプロジェクトを調整することで、合意した。STF-06-06の目的と、タスクフォースがオーストラリアに果たすように望む具体的役割に関して、議論があった。議論はまとまらず、この問題はSTF-06-04の結果が入手できたときに、再び話し合

われる。作業は、十分に証明され、すぐに入手できる技術の導入に単に資金を提供するのではなく、新技術の開発を促進する趣旨だとの発言があった。

#### **9. プロジェクトの資金調達**

国際協力銀行（JBIC）を代表して本郷尚氏が招かれ、APPで行われるかもしれないプロジェクトが利用できる資金援助や要求される支払協定について発表し、関連する問題についてタスクフォースと意見を交換した。

#### **10. 他の事項**

議長はタスクフォースに対し、APPの枠組みに入らないエネルギー問題の現在の国際情勢と、セクター別アプローチの意味合いについて発表した。議長は続いて、次回タスクフォース会合でこの問題を議題の1つとして取り上げるように提案した。

#### **11. 今後の作業についての協議**

次回タスクフォース会合は、2008年5月または6月に中国で開かれるが、正確な会合日は議長がホスト国と調整し、後日発表する。議長は各参加者に、この時期のスケジュールの都合を知らせるように求めた。

議長は今回会合と、2日間の議論の間に下された決定を総括し、閉会の言葉を述べた。議長は直ちに会合のメモと要約を起草し、タスクフォース参加者に配布した。議長が代表全員とオーストラリアの親切なもてなしに謝意を述べ、閉会を宣した。